

発達心理学概論 第Ⅷ章

[第14講]

書くこと・考えること —学校経験の意味—

内田伸子

uchida.nobuko@ocha.ac.jp

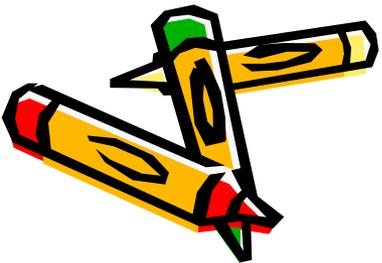
学校というもの



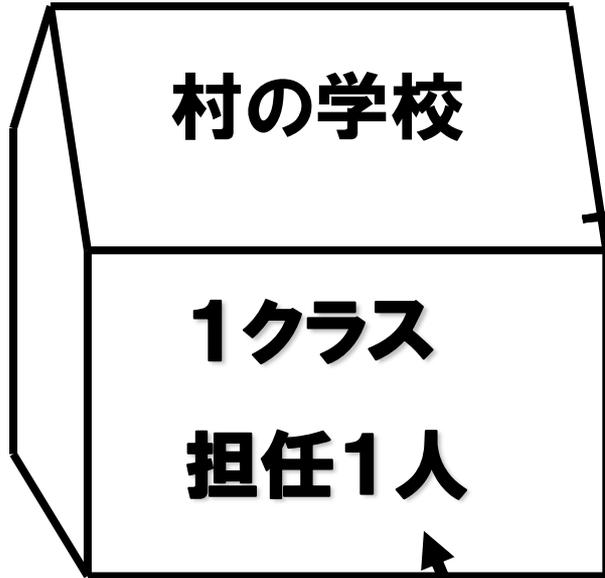
ローラ・インガルス・ワイルダー

(アメリカの児童文学作家)

- アメリカの開拓時代を舞台とした自分の生活を書いた作品 (e.g.大草原の小さな家)
- 夫アマンゾ・ワイルダーの少年時代の話『農場の少年』(講談社)



『農場の少年』

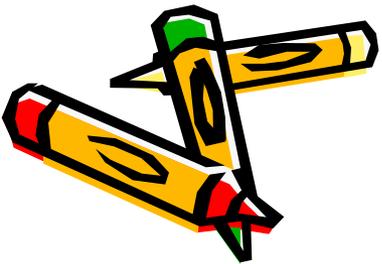
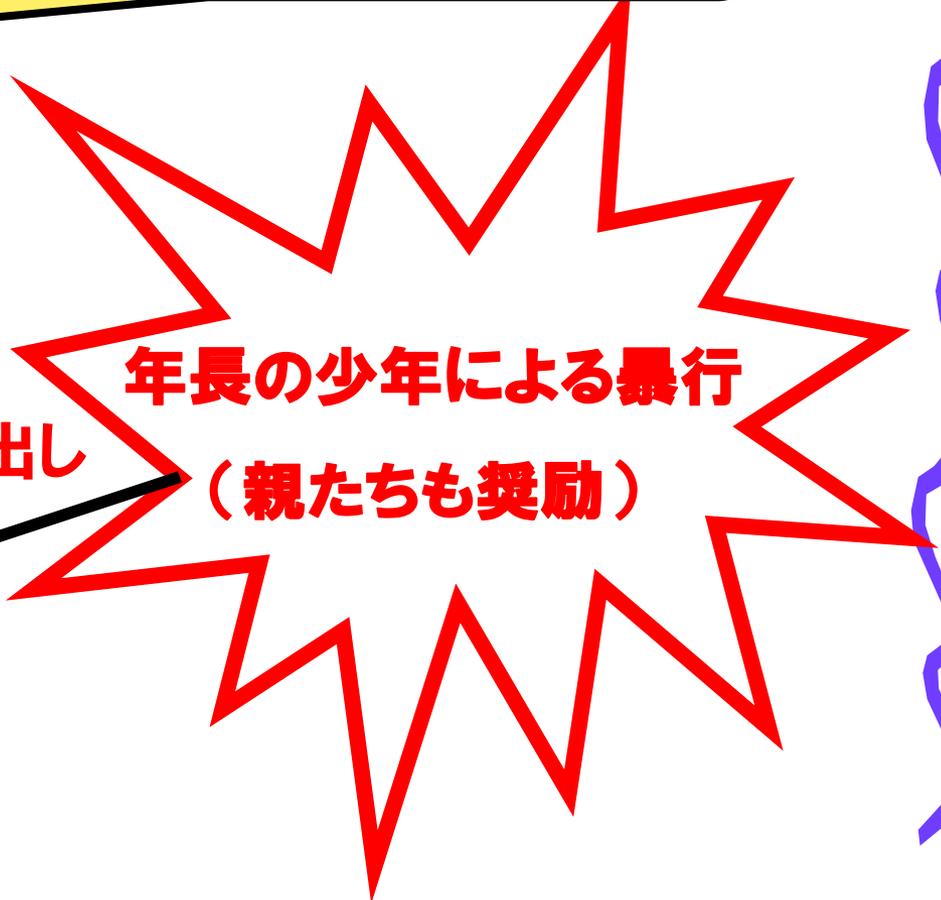


実は前任の教師も追い出され、
暴行が原因で死亡

赴任



追い出し



学校教育システム普及時期の アメリカ



「学校」は「家庭」の敵？

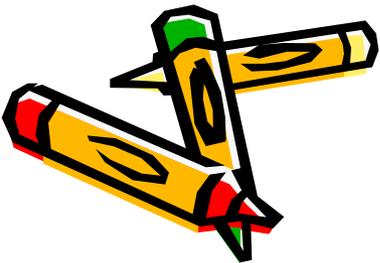
大切な労働力
である子どもを
奪う

役に立たないこ
とを教える

頭でっかちにな
り親を馬鹿に
する



学校はない方がいい！

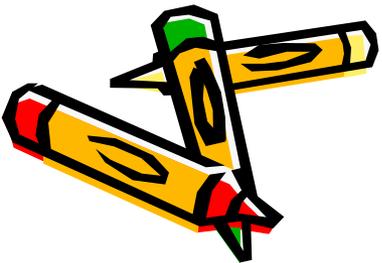


読み書きの機能



読み書き能力 (literacy) の獲得
= 抽象的・合理的思考の発達に
とっての前提

→ *読み書きのできる人とできない人の
論理的な課題解決能力の比較を行う。*



Greenfield(1966)

被験者

セネガル農村部のウォルフ族から3群:

①

森の伝統社会に
住む就学経験が
ない群

6~7歳,
8~9歳,
11~13歳, 大人

②

同じ村に
住む学童

③

セネガルの
首都ダカールに
住む学童

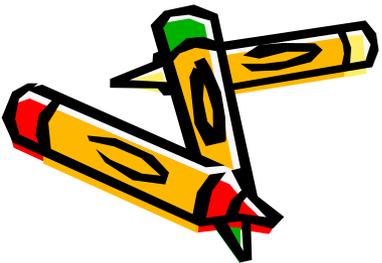
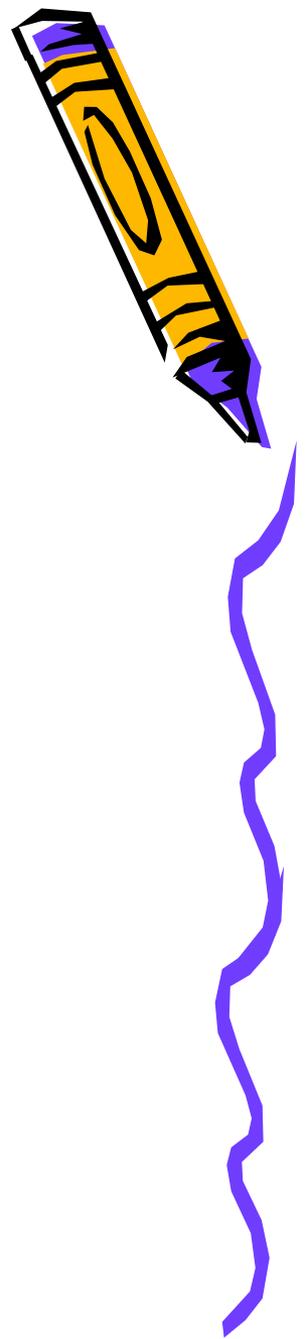


Greenfield(1966)

課題:カード分類, 再分類課題

**分類 「一番似ているものはどれ？」
「なぜ似ていると思うか？」**

再分類 「別の似ているものを二つ」



セット 1

色：黄色

形：丸い

機能：食べる



セット 2

色：オレンジ

形：

機能：着る



セット 3

色：青

形：

機能：乗る

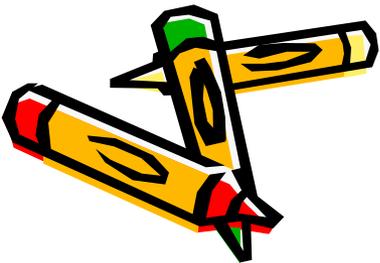
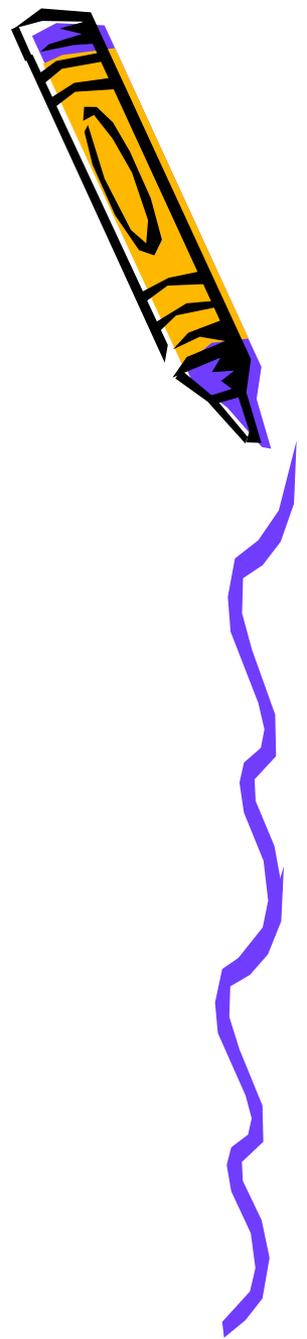


ウォルフ族の子どもに実施した分類課題例

Greenfield(1966)

結果

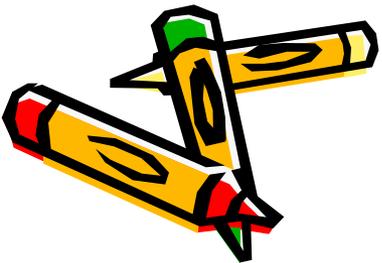
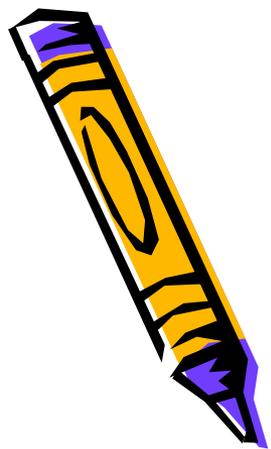
- (1) 就学経験は分類の理由づけに影響
色に対する選好は加齢とともに減少
形や機能への選好が増加



Greenfield(1966)

結果

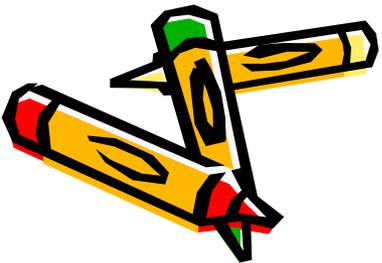
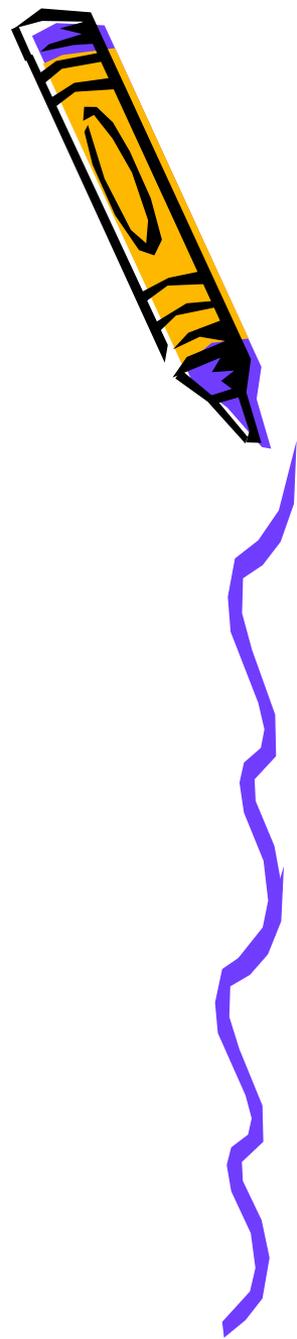
(2) 加齢とともに上位カテゴリーによって
理由づけを行う「どちらも丸いから」
→ 就学経験なしの群は色の選好性が増す



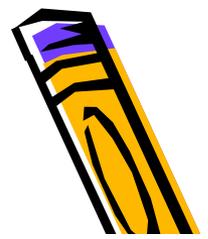
Greenfield(1966)

結果

- (3) 就学経験のある群は、分類次元を
速やかに移行できる
(色→形, 形→機能)



Greenfield(1966)



結論

- (1) 学校経験は抽象的な思考の発達に寄与する**
- (2) 「学校経験」は「ある一群の事物をいろいろな方法で処理することを可能にする. 手元の課題が何であれ一つの正しい方法などというものはないという考え方を身につけさせるのではないか.**

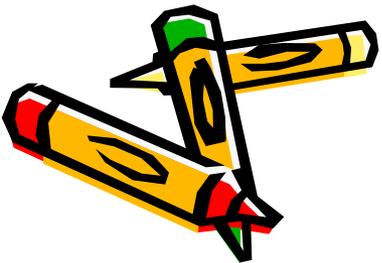


学校経験の影響

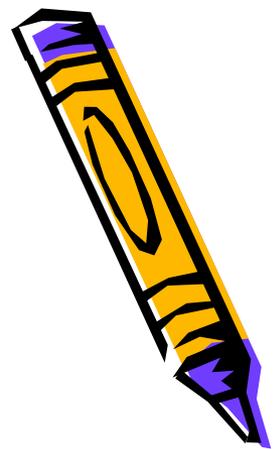


Bruner et al,(1966)

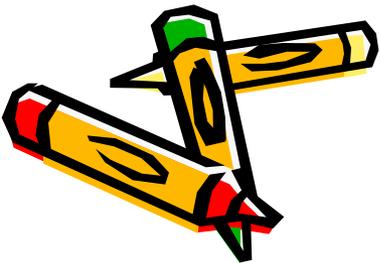
- 学校は成長しつつある子どもに対して複雑な要求を出す。
- 子どもはそれに答えるために否応なく新しい知的手段を発達させざるを得ない。
→クラス分類や理由づけへ



学校経験の影響



- 1960年～1970年代にかけて、
読み書き能力の獲得が抽象的発達を
促すことを例証する研究が輩出された。



学校経験の影響

- カール・M・チポラ『読み書きの社会史』
(御茶ノ水書房)

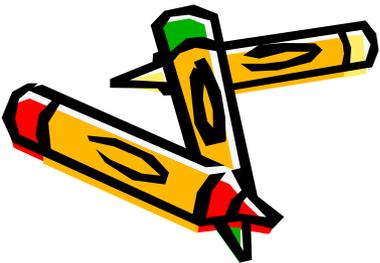
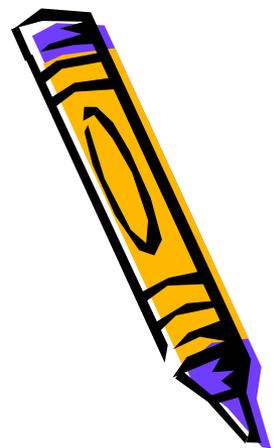
紀元11～12世紀

都市，商工業の隆盛，労働の分業，

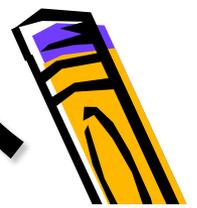
→社会経済構造の動態化

→識字の価値づけ

→読み書きのできる人の需要の急増



話しことばから書きことばへ



Vygotsky (1963)

1968『思考と言語』明治図書

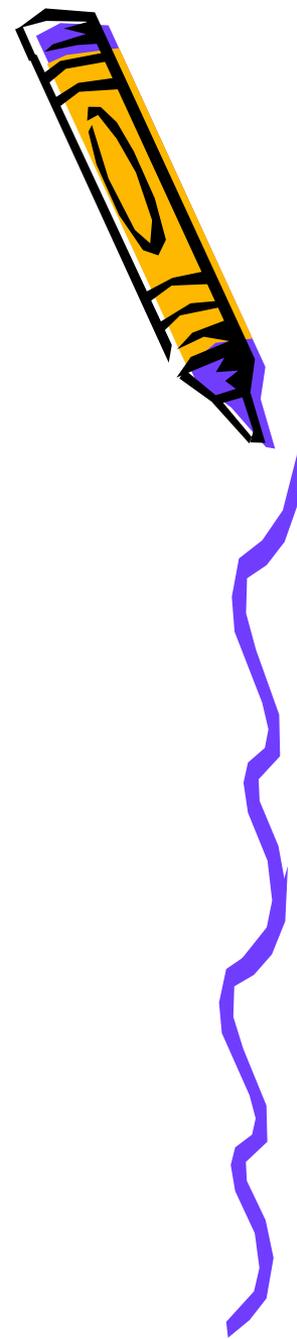
「テクノロジーや道具の変化が労働の構造に変化をもたらすように話しことばや書きことばといったシンボル体系の変化は、精神活動の再構造化をもたらす。

人間の認識活動のあらゆる基本的形式は、社会の歴史の過程で作りあげたものである。従って、シンボル体系に変化をもたらす社会文化的な変化はより高次の記憶や思考過程の、そしてより複雑な心理的体制化の基礎を形成する。」

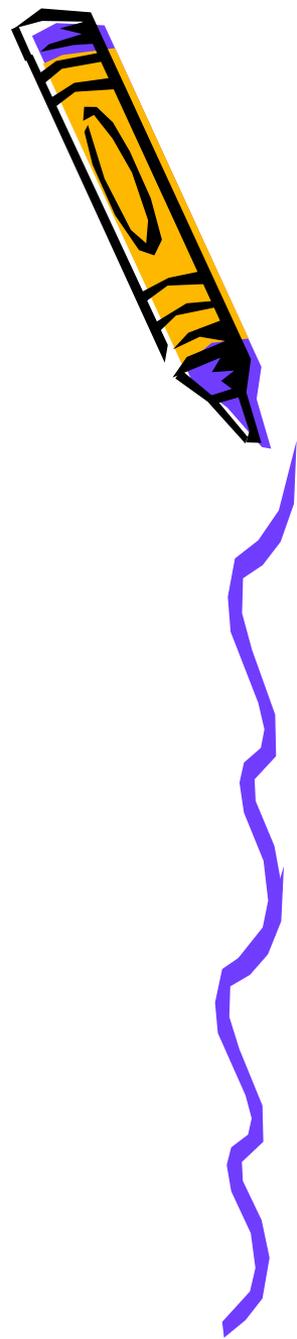




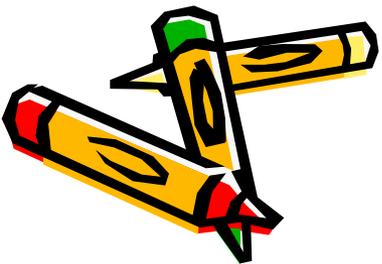
Л.С. ВЬГОТСКИЙ (1896—1934)



三段論法推論



被験者 スルタム 47歳
(パルマン村の農民・文盲)



プロトコル例1

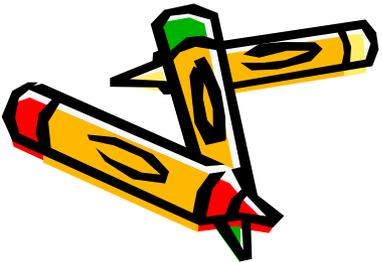


綿は暑くて乾燥した所にだけ育つ。
イギリスは寒くて湿気が多い。そこでは綿が育つでしょうか？

E

いや、今じゃ、気候は悪くなって、綿も悪くなってしまったよ。

S



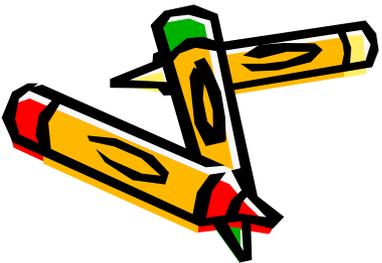
プロトコル例1

もし、いつも雨が降ったら、綿は育ったでしょうか？それとも育たなかったでしょうか？

E

いや、綿は雨を好まない。雨のため、我々の所じゃ収穫がなかったんだ。

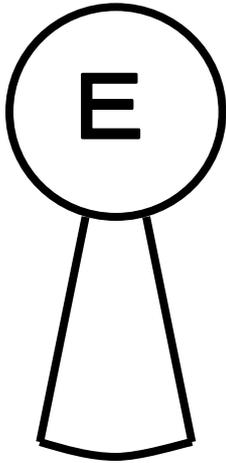
S



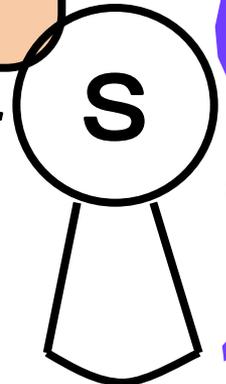
プロトコル例1



イギリスではいつも寒くて雨が降っています。そこでは綿が育つでしょうか？



わからないな。イギリスというのは聞いたことはあるが、そこに綿が育つかどうかは知らない。



→ ★個人的な経験を離れて結論を出すことを放棄してしまう



プロトコル例1

そこは寒くて雨が多いですよ。
そこには綿が育つんでしょうか？

E

もし、そこが寒くて雨が多いたら、
播種畑用の綿だけが育つ。でも
どっちにしても収穫はないだろうね。

S

→ ★前提の枠内での判断および
完全に実践的な結論



プロトコル例1

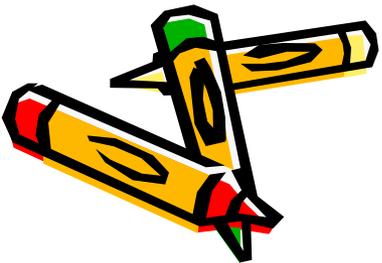
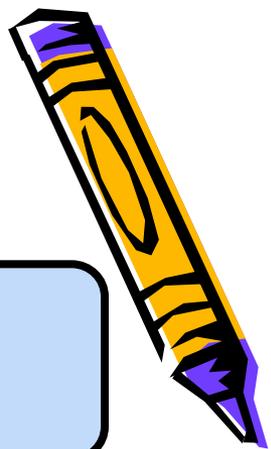
その人は綿を栽培しているでしょうか？

E

どうしてそれがわかる？！
種がまけるんだったら、
おそらくその人は綿を栽培して
いるだろうよ。

S

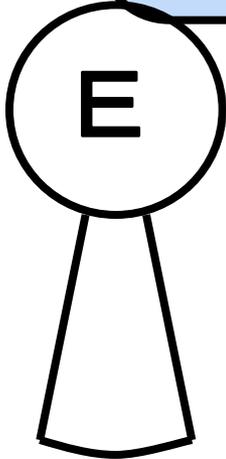
→★前提から結論は下されない



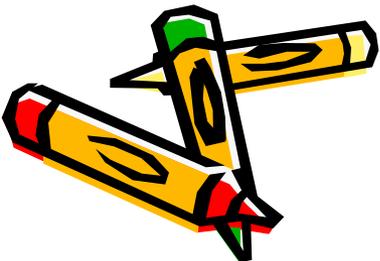
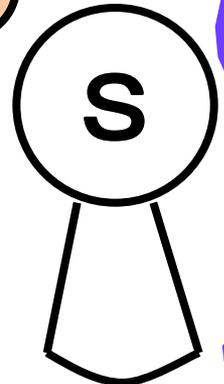
プロトコル例2



雪の降る極北では熊（Медведь）は、すべて白い（белый）。ノーバヤ・ゼムリヤーは極北にある。その熊は何色ですか？



大いに経験もあり、あちこち行った人なら、その質問に答えられるだろうね。



→ **★三段論法的前提からの結論を放棄
その問いに答えるには個人的経験が
必要であることを指摘**

プロトコル例2

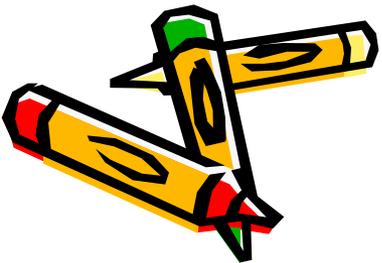
では私が話したことから、その質問に
答えられますか？

E

寒い国に何度も行ったことや住んだこと
があって、何でも見た人ならその質問に
答えられるだろうし、そこでは、熊がどん
な色をしているかも知っているだろうね。

S

→ **★三段論法的前提からの結論を放棄
その問いに答えるには個人的経験が
必要であることを指摘**



プロトコル例2

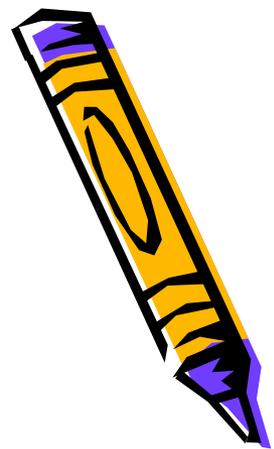
シベリアの北のほうにはいつも雪があります。私はあなたに、雪のある所では熊は白いといいましたね。シベリアの北では熊はどんな色をしているんでしょうか？

E

私はシベリアのほうには行ったことがないな。去年死んだダジバイ・アカならシベリアを見たことがあるんだが……彼は私に熊がいると話してくれたが、それがどんなものなのかは言っていなかった。

S

→★三段論法的前提からの結論を放棄
その問いに答えるには個人的経験が必要であることを指摘



推論のタイプ



個人的な経験と結びついた推論 経験と関係ない三段論法推論

僻村の農民
(文盲)

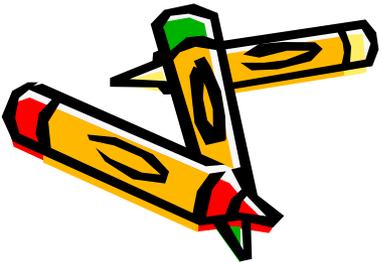
60%

15%

短期の
文字教育群

0%

100%



読み書き能力のもたらす認知的所産

論理的思考？

Scribner, S. & Cole, M. (1978, 1981)

従来は<読み書き能力>と<学校経験>を
分離しなかった → **ヴァイ (Vai) 語 (リベリア)**

◆伝統的方法: 読み書きのできる人と
できない人の問題解決能力を比較

⇒ 差がない!



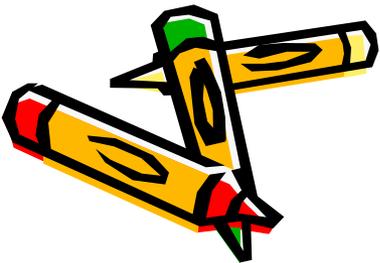
読み書き能力のもたらす認知的所産

●文化人類学的方法：観察とインタビュー

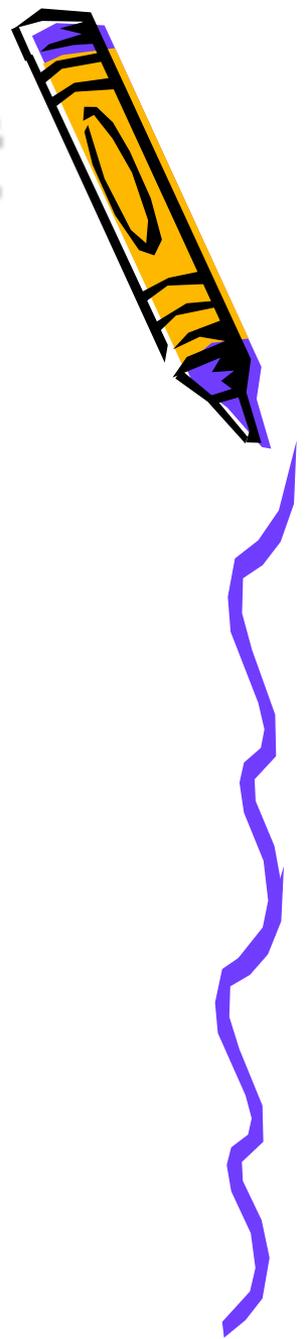
手紙の冒頭＝「文脈化」のメッセージ
(contextualization)



未知のゲームの説明の仕方に転移



読み書き能力のもたらす認知的所産



●ヴァイ語の読みの技能:

文字 = 1文字が1音節に対応している
バラバラの音節を保持して意味が
わかるまで区切り方を変える



Expert > Novice

単語単位も **シラブル単位** も記憶できた



Vygotsky仮説に矛盾するか？

→否

●読み書き能力の使われ方が問題；

適応範囲が広がれば，その結果

もたらされる認知的所産も拡大するはず。



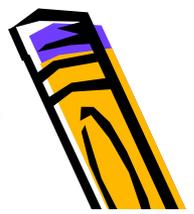
ルーチン的な商取引の手紙

VS

詩作・文学鑑賞・推敲



書きことばのもたらす認知的所産



Vygotsky(1963)

「テクノロジーや道具の変化が労働の構造に変化をもたらすように話しことばや書きことばといったシンボル体系の変化は、精神活動の再構造化をもたらす。

人間の認識活動のあらゆる基本的形式は、社会の歴史の過程で作りあげたものである。従って、シンボル体系に変化をもたらす社会文化的な変化はより高次の記憶や思考過程の、そしてより複雑な心理的体制化の基礎を形成する。」



Vygotsky仮説に矛盾するか？

→否

●チポラ (1983)

「技術と価値とは無関係ではない。ある社会は、そこで有力な諸価値の故にある種の技術を発展させることができるし、あるいは発展し損なうことがあるだろう。」



読み書き技能もどんなふうに使われるかが
問題：領域固有→領域一般へ



作文の推敲過程 **所産⇒過程**



To be continued

